

# 「最後の植樹」児童ら一致団結

来春閉校・大蛇小「緑のバトン運動」



「緑のバトン運動」で贈られた苗木を手にする大蛇小の児童たち＝階上町

階上町にある町立大蛇小学校（小田桐幸春校長・全校児童36人）で28日、児童たちがドウダンツツジの苗木を植樹した。東日本大震災の津波で緑が失われた沿岸部に、全国の学校で子どもたちが育てた苗木を植樹する「緑のバトン運動」（朝日新聞社後援）の一環。大蛇小でも毎年植樹が行われてきたが、来年3月の閉校が決まっているため、今回が「最後の植樹」となった。

階上町は震災時、10メートルを越える津波に襲われ、公共施設などが被害を受けた。海水が校舎のそばまで押し寄せた大蛇小にはこの運動で毎年苗木が贈られ、今年も全国の小学校などで育て

られたドウダンツツジ64本が届いた。植樹を前に小田桐校長は「がんばってほしいとの願いや思いが込められた苗木。みんなのことを考えてくれる人が全国にいるということです。この思いを受け取ってほしい」と呼びかけた。子どもたちは、学校付近の緩やかな斜面に低学年から順に植樹した。植樹を終えた林下紗奈さん（6年）は「1年生から植樹をし、一緒に成長してきました。（植樹は）みんなで一致団結してできました。ずっと残していきたいです」と語った。

（横山藏利）